

平成28年度 活動報告書

熊本県地域医療支援機構 / 熊本大学医学部附属病院 地域医療支援センター
熊本大学医学部附属病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座



1 はじめに

1. 熊本県地域医療支援機構理事長あいさつ…………… 1
2. 地域医療・総合診療実践学寄附講座特任教授あいさつ…………… 2
3. スタッフ一覧…………… 3

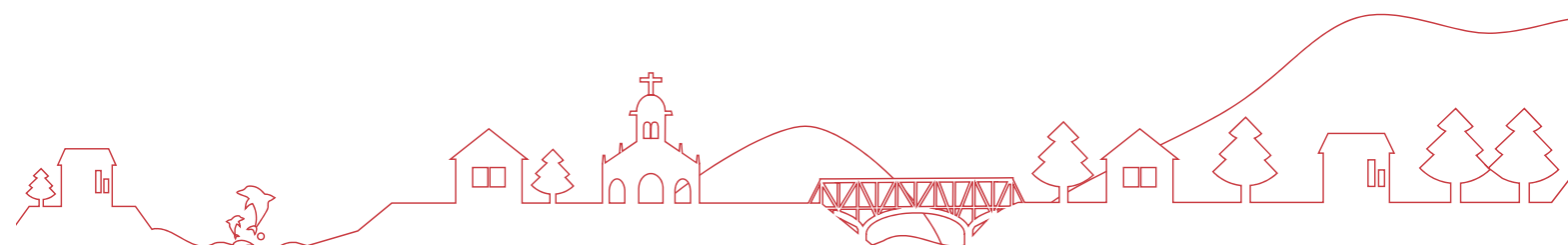
2 熊本地震について

1. 概要…………… 4
2. 活動報告…………… 4

3 熊本県地域医療支援機構

(熊本大学医学部附属病院 地域医療支援センター)

1. 活動概要…………… 8
2. 年間活動実績…………… 8
3. 活動報告
 - I. 調査と分析 …… 9
 - II. キャリア形成支援 …… 10
 - III. システム構築 …… 11
 - IV. 女性医師キャリア支援 …… 12
 - V. 情報発信と相談対応 …… 14
 - VI. 協力関係の構築 …… 15
 - VII. 診療・診療支援 …… 16
 - VIII. 講演会 …… 17



4 地域医療・総合診療実践学寄附講座

1. 活動概要	18
2. 年間活動実績	18
3. 活動報告	
I. 調査研究	19
II. 教育活動	19
III. 診療・診療支援	24
IV. 講演会	24
4. 後期研修プログラム	26
5. 指導医養成プログラム	30

5 玉名教育拠点

1. 活動概要	32
2. 年間活動実績	32
3. 活動報告	
I. 教育活動	33
II. 診療	36
III. 年間診療報告	36



6 熊本県医師修学資金貸与制度

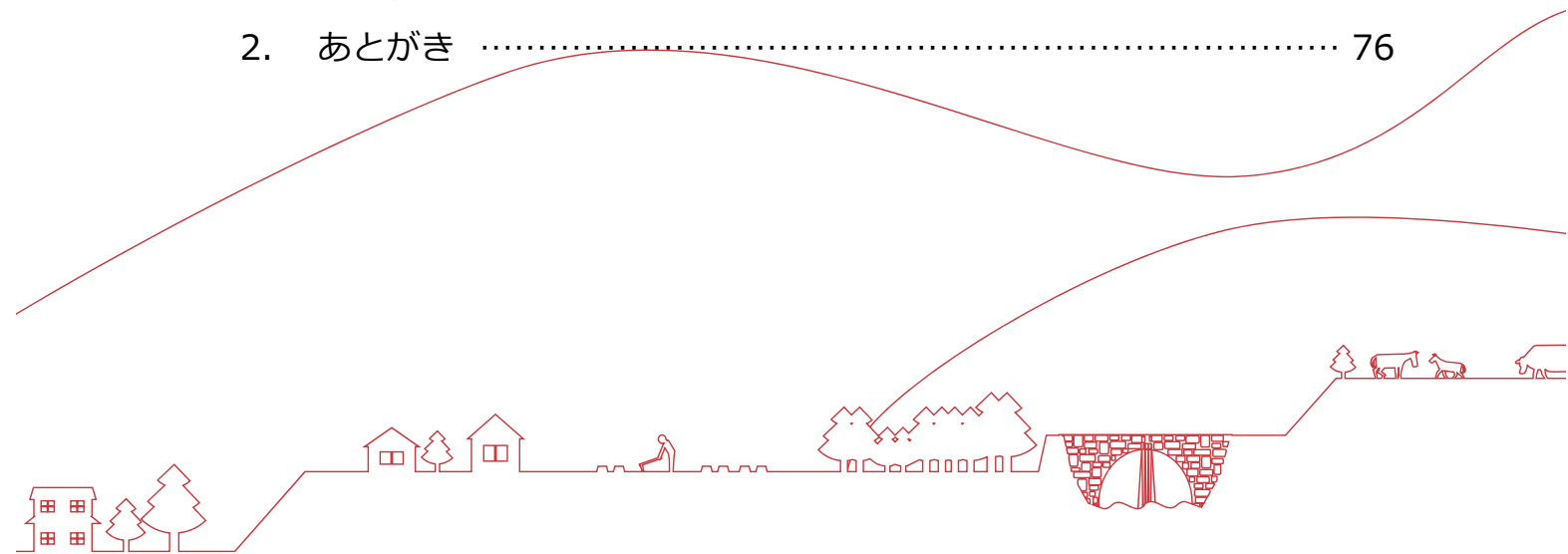
1. 地域医療ゼミ	
I. 概要	37
II. 活動報告	37
2. 平成28年度夏季学生地域医療特別実習	
I. 概要	41
II. 活動報告	42
3. 学生レポート	
I. 熊本大学医学部医学科生	48
II. 自治医科大学医学部医学科生	57
4. 平成28年度卒業生	64

7 業績

1. 熊本県地域医療支援機構	66
2. 地域医療・総合診療実践学寄附講座	67
3. 玉名教育拠点	70

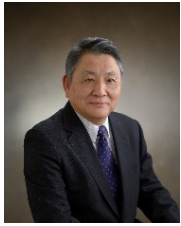
8 おわりに

1. スタッフから一言	71
2. あとがき	76



1 はじめに

1. 熊本県地域医療支援機構 理事長あいさつ



熊本県地域医療推進機構 理事長

熊本大学医学部附属病院 病院長

水田 博志

皆様方には、熊本県地域医療支援機構ならびに地域医療・総合診療実践学寄附講座の取り組みに対して、平素より多大なご支援とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。この度、平成28年度の活動について報告書を作成いたしましたので、ご一読いただければ幸いに存じます。

昨年4月14日に始まった一連の平成28年熊本地震は、短期間に2度にわたり震度7を記録するという未曾有の大災害となりました。この地震でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害を受けられた皆様に心よりお見舞いを申し上げます。多くの医療機関も被災され、従来からの診療の継続が現在もお困難な施設もございますが、1日も早い復旧をお祈り申し上げます。

幸い本院では甚大な被害はなく、発災直後から救急搬送患者の対応や他医療機関で入院が困難となった重症患者の受け入れなどにあたるとともに、医療者の派遣や様々なプロジェクトの立ち上げにより被災地医療の支援と地域医療の安定に向けて取り組んでまいりました。その一環として、地域医療・総合診療実践学寄附講座においても、熊本県知事の要請に基づき、被害が大きかった益城地区への災害医療コーディネーターの派遣を続けてまいりました。このため、本来5月に予定していた熊本県地域医療支援機構講演会はやむなく中止せざるを得なくなりました。一方で、夏季学生地域医療特別実習では、将来、地域医療に携わる地域卒等の医学生（熊本県医師修学資金被貸与者）が益城町や南阿蘇村の被災地の住民の方々と接し、地域の被害の状況を身をもって体験してもらいました。

このような中ではございましたが、地域医療支援機構の本来の業務として、知事指定病院等の協力をいただき、平成28年度も継続して地域医療の現況アンケート調査を行いました。また、キャリア支援のための登録制度の推進やキャリア支援調整会議による卒後3年目の医師への支援などを実施してまいりました。さらに、熊本県から新たに委託を受けて、「もう一度臨床へ支援事業（女性医師の復職支援事業）」をスタートいたしました。一方、一昨年4月に設置された公立玉名中央病院教育拠点では、医学部学生に対する地域医療の教育と卒後の総合診療医の養成に向けて活発な活動を行っています。

ご承知のように、少子超高齢社会に対応可能な医療・介護サービス提供体制をめざして地域医療構想が策定され、平成29年度は第7次保健医療計画の策定が予定されています。また、平成30年度からは新専門医制度も施行予定となっており、これらの状況を見守りつつ、望ましい熊本の地域医療の構築を図ることが必要です。本院では、今後も引き続き、熊本県、市町村、医師会、連携病院など関係機関との連携を強化しながら、熊本の医療体制のさらなる充実をめざして努力してまいりますので、皆様方のなお一層のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

2. 地域医療・総合診療実践学寄附講座 特任教授あいさつ



熊本大学医学部附属病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座 特任教授
熊本大学医学部附属病院 地域医療支援センター センター長

松井邦彦

皆様に、私たち熊本県地域医療支援機構/熊本大学医学部附属病院 地域医療センター、および熊本大学医学部附属病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座の、平成28年度の報告書をお届けいたします。本年度は熊本の私たちにとって、4月に起こった熊本地震に始まった、あっという間の一年でした。

さかのぼること平成27年4月に公立玉名病院のご協力を得て、大学病院外の教育拠点を同院内に設置することができました。この教育拠点の設置は、熊本県における新たな医師育成のシステムの設立と導入であり、これによって地域医療システム学寄附講座は、平成21年の設置以来の目的を達成したのものとして、平成28年4月に地域医療・総合診療実践学寄附講座と名前を変え、新しい仲間を迎え、再スタートを切ったところでした。

しかしながら地震の発生によって、私たちの活動は大きく変わりました。幸いに関係する全教職員はそれぞれの家族ともに無事でしたが、余震が続く中、避難所等での不自由な生活を送ることになりました。県内多数の地域が大きな被害を受けた中、手探り状態で地域医療支援センターとしての、非常時の支援活動を行うことになりました。残念ながら私たちが実際に活動を行うことが出来たのは、限られた地域の限られた内容のみであり、地震後の復興に大きく貢献することはできませんでした。しかし、地震後の医療支援に、日本全国から様々な団体の方々がいらっしゃって活動を行って下さったことは、被災地の県民として感謝に堪えず、また一緒に活動を行うことが出来たのは、私たちにとって貴重な経験でした。

そのような状況の中でも、機構、センター、および講座として、様々な取り組みや活動を行いました。本年度の報告書を作成する過程は、私たちにとって、この一年を振り返る、貴重な振り返りの機会となり、これからの活動に役立たせることが出来るものと思います。

新たな専門医制度は、一年先送りとなり、平成30年度から開始される予定のようです。熊本県における地域の医師不足や、医師の地域偏在の問題は依然続いており、私たちの活動への期待の大きさを、ひしひしと感じています。平成29年度は、熊本県医師修学資金貸与制度の一期生三名が、二年の臨床研修を終え、卒後三年目となって各々の専門分野での研修を開始します。将来県内各地で活躍する医師を育成するために、卒前から卒後の教育、そしてキャリア支援は、私たちの最重要課題であることに、変わりはありません。

県民の皆様の期待に応えるため、来年度は私たちにとって更に忙しく、充実した一年となるでしょう。皆様には、私共に今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。



3. スタッフ一覧

◆ 熊本県地域医療支援機構（熊本大学医学部附属病院 地域医療支援センター）



松井 邦彦 特任教授（センター長）
総合診療科



坂田 正充
地域医療支援コーディネーター



谷口 純一 特任准教授（副センター長）
総合診療科



柚原 敬三
地域医療支援コーディネーター



古賀 義規 客員研究員
（御所浦診療所所長）



高塚 貴子
女性医師復職支援コーディネーター



後藤 理英子 特任助教
糖尿病・代謝内分泌内科



中川 実咲 事務補佐員



宮前 志穂 事務補佐員



横手 友紀子 事務補佐員

◆ 熊本大学医学部附属病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座



松井 邦彦 特任教授
総合診療科



高柳 宏史 特任助教
総合診療科



前田 幸佑 特任助教
総合診療科



香田 将英
医員（大学院生）



久保 清美 事務補佐員



山並 美緒 事務補佐員

◆ 玉名教育拠点



田宮 貞宏 特任准教授
総合診療科



小山 耕太 特任助教
総合診療科



楯 直晃 後期研修医2年目
総合診療科



田中 顕道 後期研修医1年目
総合診療科



中村 孝典 後期研修医1年目
総合診療科

熊本地震について

1. 概要

2016年4月14日、震度7の直下型大地震が熊本県を襲った。余震に怯えつつも、ようやく眠りについた16日の深夜、前代未聞の「本震」が発生した。さらに震度6、震度5強の揺れが連続して起きた。

デマ情報による混乱、避難所では物資の分配の滞り、建物の倒壊を恐れて車内で過ごす「車中泊」によるエコノミークラス症候群、終わる気配のない余震。様々な問題が起きながらも、全国からの多くの支援、被災現場で活動する人々によって少しずつ元の生活に戻り始めた。

しかし、復興の道筋が見え始めた頃、再び熊本に暗雲が訪れた。

2016年6月19日から同月25日にかけて、九州全体に記録的な大雨が襲い掛かった。

1時間に80ミリの雨量が降ると、雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒

が必要だとされている。6月19日、天草地方の牛深（うしぶか）市で85ミリ、翌20日、宇土（うと）市では120ミリ以上、熊本市でも95ミリを観測、さらに21日には上益城（かみましき）郡の甲佐（こうさ）町で150ミリを観測した。

連日の大雨により、床上・床下浸水被害だけでなく、土砂災害が発生して死者も出てしまった。この死者のうち5人は、熊本地震による被害がなければ亡くなることはなかったと考えられ、熊本地震関連死とされている。

もうすぐ1年が経とうとしている。窓の外、町中を見れば少しだけの違和感を残し、元通りのようにも見える。しかし、阿蘇山脈の土砂崩れの傷跡が、熊本城の痛々しさが、まだ復興への道のりを歩み始めたばかりであることを物語っている。

2. 活動報告

◆ 院内活動

本震が発生した4月16日午後からは、熊大病院救急外来での診療活動に谷口が参加し、救急患者への対応を行いました。同日、当センター教員内のメーリングリストで安否確認を行った後、翌17日日曜の午後に可能な教員は大学病院に集まり、部署内での今後の対応や活動方針についての確認を行いました。幸い教員と事務職員、およびその家族全員の無事が確認できましたが、自宅が被害を受けたために避難所へ家族ともに避難している人もいました。またその避難所内で、自主的に支援活動を開始した教員もいました。当面は毎朝8時半に、各自の状況確認や、情報の共有のためのミーティングを行うこととしました。

また地域医療・総合診療実践学寄附講座での特別臨床実習（クリクラ）で、県内各地域の施設において実習を行っていた医学科6年生8名に対し安否確認を行い、17日夕方までには対象学生全員の安全を、直接確認することが出来ました。余震が続く熊本市内の状況からは、実習先での学生の安全を保証することは困難と考え、大学の教務係との連絡や指示を受ける前でしたが、この時点で実習の中止を学生に伝えました。また谷口は、医学部全学生の安否確認を、医学部教務係、学生委員会、および学生会等と連携して行い、支援が必要な学生の調査も行いました。

◆ 院外活動

1. 益城町医療救護調整本部での活動

時間の経過とともに、甚大な被害を受けた地域の状況が明らかとなっていきました。熊本県地域医療支援機構は地域医療の支援を目的に熊本県により設置され、その業務を行う部署の名称が地域医療支援センターということから、被害の大きかった地域での診療支援活動等を行うべきではないかと内部で議論を行っていたところ、4月30日に水田博志熊大病院長より、益城町医療救護調整本部での活動を命じられました。これは熊本県医師会長の福田稠先生よりの依頼によるものでした。益城町はもともと被害の大きかった地域であり、多数の町民が避難所での生活を強いられている状況でした。この地域の医療機関全てが診療を中止しており、替わって日本医師会のJAMTチームをはじめ、日本全国の様々な団体から派遣された診療支援チームが多数の医療救護班を作り、診療活動を行っていました。益城町では、町の健康福祉センター（はびねす）に医療救護調整本部が設置され、町内の各避難所での医療ニーズの現状に応じて、各医療救護班へ日々の活動を依頼し、情報収集を行っていました。この本部長として中心になって活動されていたのが、地元で大きな被害を受けた東熊本病院長で上益城郡医師会長でもあった永田壮一先生です。永田先生が行っていらっしゃる調整本部の業務を支援するために、松井が益城へ通うことになりました。

週末を含めた連日の調整本部での活動は、診療チームの差配やマネジメントに加え、避難所の衛生管理など多岐にわたり、県庁に設置された熊本県医療救護調整本部と密に情報交換、連携をとりながら行っていました。普段より県医療政策課の方々と連携した活動を行っていたことが、大いに役立ちました。また途中からは、谷口、高柳、および前田も参加し、私たちの部署の教員で分担して調整本部での活動を行いました。

医療救護班による診療支援活動は、地元の先生方による通常の診療機能が回復すると収束することになります。上水道を含めたライフラインの回復とともに、益城町の地元医師会の先生方も診療再開のめどがたち、先生方の顔写真を入れたポスターやチラシを我々の地域医療支援センターで作成し、避難所などの人が集まる所に配布、掲示しました。地元医療機関の再開の情報を避難所の方々に伝えることで、救護所の受診者も次第に減少していき、5月29日には益城町内の全ての医療救護活動を終了し、益城町医療救護調整本部の閉所式を迎えることが出来ました。

2. 益城町職員を対象としたストレスチェック調査、面談

その後、7月には松井が益城町より災害時メンタルヘルス委員の委嘱を受け、教員（松井、高柳、前田、および香田）と、引き続き益城町役場で支援活動を続けられていた国立病院機構災害医療センターの先生方等と共に、益城町全職員を対象としたストレスチェック調査、および面談を行いました。その中で必要と考えられれば、精査や医療機関の受診等を勧めることを行いました。益城町職員の方々の多くは自身が被災者であるにも関わらず、発災直後より不眠不休で働き詰めであり、強いストレスにさらされ疲労の蓄積が著しい状況であることがうかがわれました。益城町職員の方々の状況から、休息を促すポスターを作成し益城町役場の職員の目につくところに掲示をいたしました。

3. 夏季学生地域医療特別実習での活動

例年夏休み期間中には、熊本県医師修学資金貸与学生の熊大生と熊本県出身の自治医大生を対象とした夏季学生地域医療特別実習を、当地域医療・総合診療実践学寄附講座の主催で行っています。本年度は8月17日から19日にかけて、益城町テクノ団地応急仮設住宅で入居者への聞き取り調査（熊本大学政策創造研究教育センター、円山琢也先生へのご協力）や、被害の大きかった南阿蘇村の南阿蘇中学校において教職員との意見交換、中学生への学習支援と交流等の活動を、学生と共に行いました。

益城町の診療可能な病院情報

発行日:2016年5月16日

発行元:上益城郡医師会 益城町地区



被災した皆さんの復興は健康からです。皆さんと一緒に
元気な町にしていきたいと思います。

上益城郡医師会 会長 永田 壮一

<h3>川崎医院</h3> <p>がんばろう 益城町</p> <p>川崎 弘 電話番号 096-286-4565 住所 田原184-2</p> <p>診療科 内科・外科・リハビリテーション科</p> <p>診察時間 ■月～金 9:00～12:00 ■土曜 (1・3・5週のみ) 9:00～12:00</p> <p>その他:</p>	<h3>益城病院</h3> <p>もの忘れ、認知症に関わること相談や こころのお悩み等ございましたらお気軽 にご相談ください。</p> <p>大前 邦明 電話番号 096-286-3611 住所 惣領1530</p> <p>診療科 心療内科・精神科・小児科・歯科</p> <p>診察時間 ■月～金 9:00～12:00, 13:30～15:30</p> <p>その他:</p>	<h3>椎崎胃腸科外科医院</h3> <p>必ず もとの生活にもどれます</p> <p>椎崎 敏臣 電話番号 096-286-7344 住所 惣領1421-1</p> <p>診療科 外科・胃腸科</p> <p>診察時間 ■月～金 9:00～13:30, 14:00～17:30 ■土曜 9:00～13:30</p> <p>その他:</p>	<h3>清水眼科</h3> <p>がんばろう 益城・熊本</p> <p>清水 勉 電話番号 096-289-0288 住所 大字惣領1429-5</p> <p>診療科 眼科</p> <p>診察時間 ■月～金 9:00～12:30, 14:00～17:30 ■土曜 9:00～13:00</p> <p>その他:水曜日は午前中のみです。</p>
<h3>東熊本病院</h3> <p>がんばって復興しましょう。</p> <p>永田 壮一 電話番号 096-286-2525 住所 惣領1522</p> <p>診療科 内科・消化器科・循環器科・小児科・ 皮膚科・リハビリテーション科・ 放射線科</p> <p>診察時間 5月23日朝から診療を再開します。</p> <p>その他:</p>	<h3>市原産婦人科医院</h3> <p>みんなで復興がんばりましょう</p> <p>市原 憲雄 電話番号 096-286-7568 住所 惣領1487</p> <p>診療科 産婦人科</p> <p>診察時間 ■月～金 9:00～12:00, 14:00～17:30 ■土曜 9:00～12:00, 14:00～16:00</p> <p>その他: 日曜日は緊急時に随時対応いたします。</p>	<h3>益城中央病院</h3> <p>これからも がんばりましょう</p> <p>宮本 哲明 電話番号 096-286-3151 住所 宮園722-1</p> <p>診療科 内科・呼吸器科・消化器科・ 小児科・皮膚科・泌尿器科・ 放射線科</p> <p>診察時間 ■月～金 9:30～12:00, 13:30～17:00 ■土曜 9:30～12:00</p> <p>その他:</p>	<h3>かいがクリニック</h3> <p>一日一日を大切に。</p> <p>海賀 千弘 美波子 電話番号 096-286-2023 住所 木山358-1</p> <p>診療科 内科・循環器科・小児科</p> <p>診察時間 ■月～金 9:00～12:00, 14:00～18:00 ■土曜 9:00～13:00, 14:00～18:00</p> <p>その他:</p>
<h3>永田内科医院</h3> <p>皆で のりこえましょう。</p> <p>永田 美与 電話番号 096-286-3636 住所 福留740-18</p> <p>診療科 内科・消化器科・循環器科</p> <p>診察時間 ■月～金 9:00～12:00, 13:00～15:00 ■土曜 9:00～12:00</p> <p>その他:水曜日は午前中のみです。 診察時間は6月から変更する可能性があります。</p>	<h3>益城整形外科医院</h3> <p>がんばりましょう!</p> <p>山本 正昭 電話番号 096-286-1818 住所 安永805-4</p> <p>診療科 整形外科・リハビリテーション科</p> <p>診察時間 ■月～金 9:00～12:30, 14:00～17:30 ■土曜 9:00～12:30</p> <p>その他:水曜日は午前中のみです。</p>	<h3>砥川クリニック</h3> <p>おからだ 大切に!</p> <p>壬生 保博 電話番号 096-286-5770 住所 砥川1726</p> <p>診療科 内科・外科・胃腸科・肛門科・ リハビリテーション科・麻酔科</p> <p>診察時間 ■月～金 9:00～12:30, 14:00～18:00 ■土曜 9:00～12:30 ■日曜 9:00～12:30</p> <p>その他:水曜日は終日休みです。</p>	<h3>おがた整形外科</h3> <p>精神的に 診察します。</p> <p>緒方 博司 電話番号 096-289-3301 住所 福留802-2</p> <p>診療科 内科・リウマチ科・整形外科・ 形成外科・リハビリテーション科・ 麻酔科</p> <p>診察時間 ■月～金 9:00～13:00, 14:00～18:00 ■土曜 9:00～13:00</p> <p>その他:金曜日の午後は13:00～18:00までです。</p>
<h3>ふくだ整形外科</h3> <p>一緒に ガンバリましょう。</p> <p>福田 樹博 電話番号 096-286-7391 住所 大字馬水805</p> <p>診療科 リウマチ科・整形外科・ リハビリテーション科</p> <p>診察時間 ■月～金 9:00～18:00 ■土曜 9:00～16:00</p> <p>その他:昼休みナシで診察します。 水曜日は午前中9:00～12:00までです。 診察時間は6月から変更する可能性があります。</p>	<h3>ましきクリニック</h3> <p>がんばろう 益城!</p> <p>桂 文裕 電話番号 096-287-8733 住所 惣領1308-3</p> <p>診療科 アレルギー科・耳鼻いんこう科</p> <p>診察時間 ■月～金 9:00～12:30, 14:30～18:30 ■土曜 9:00～14:00</p> <p>その他:水曜日は午前中のみです。</p>	<h3>益城なかぞのクリニック</h3> <p>いっしょにね!</p> <p>中園 光一 電話番号 096-286-1700 住所 宮園732-9</p> <p>診療科 内科・呼吸器科・消化器科・ 循環器科</p> <p>診察時間 ■月～金 8:30～12:30, 14:00～18:00 ■土曜 8:30～13:00</p> <p>その他:水曜日は午前中8:30～13:00のみです。</p>	<h3>さくら病院</h3> <p>気になったら早めの受診を お願いします。</p> <p>大塚 裕一 電話番号 096-286-8111 住所 広瀬1445-15</p> <p>診療科 内科・脳神経外科・呼吸器科・ 消化器科・胃腸内科・循環器科・ リハビリテーション科・放射線科</p> <p>診察時間 ■月～金 9:00～12:30, 13:30～17:00</p> <p>その他:</p>

高本脳神経外科医院

ともに歩みましょう

高本 憲治
電話番号 096-289-0088
住所 惣領1316

診療科 内科・神経内科・脳神経外科・
小児科

診察時間
■月～金 9:00～13:00, 14:00～18:00
■土曜 9:00～13:00

その他:

上益城郡医師会
電話番号 096-282-0461 住所 御船町御船986

上益城郡医師会のホームページでも情報を確認することができます。
→ <http://www.kamimasikidoc.net/index.shtml>

【協力機関】



熊本県
地域医療支援機構



熊本大学医学部附属病院
Kumamoto University Hospital
地域医療支援センター

益城町職員の休息を促すポスター：益城町役場内に掲示

<p>息をすいながら がまだ自分を 受け入れる</p> <p>息をはきながら がまだ自分に ほほえみ返す</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> とりあえず、やってみんね</p>	<p>よかよか だいじょうぶばい でけたしこ</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 相手に向かって、言ってみる</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 自分に向かって、言ってみる</p>	<p>がまださない時間を じぶんで、つくる</p> <p>それが、 がまだするための ポイントです</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> お茶を飲む時間を大事にする</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ふっと、カタのチカラをぬいてみる</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> お休みの日をつくってみる</p>	<p>元気なあなたのおかげで、</p> <p>元気になる だけかかります</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1時間に1度、大きなせのびをしてみる</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1日に1度、にっこりわらってみる</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1週間に1度、お休みの日をつくってみる</p>
--	--	--	---

新聞記事

平成28年7月17日
日本経済新聞より ➡

日本経済新聞 2016年(平成28年)7月17日(日曜日)

熊本地震本震から3ヵ月

心のケア 支援者にも

「心身のケアが必要」と指摘する。被災者支援者への対応は追われてきた自治体職員らに、心身のケアが必要と指摘する。被災者支援者への対応は追われてきた自治体職員らに、心身のケアが必要と指摘する。

自治体・病院職員ら 不調訴え相次ぐ

熊本市が5月15日全職員に実施したアンケートでは、回答した4334人の1割強の504人に、うつや心的外傷性ストレス障害(P.T.S.D.)の傾向がみられた。熊本市は、被災者支援者への対応は追われてきた自治体職員らに、心身のケアが必要と指摘する。



平成28年12月28日
熊本日日新聞より ↓

教訓生かし支援体制の充実を

熊本地震 大災害における医療と教育

被災医療機関の支援体制を

迅速・的確な情報伝達可能に

阿蘇全域の活動を調整・支援

指定外避難所をサポート

指定外避難所をサポート

診療支援や避難所でも活動

子供のケア なお課題

4300人「支援必要」

7月1日から、被災者支援センターが、熊本市内の指定外避難所をサポートしている。熊本市は、被災者支援者への対応は追われてきた自治体職員らに、心身のケアが必要と指摘する。

大塚商会

3 熊本県地域医療支援機構

(熊本大学医学部附属病院 地域医療支援センター)

1. 活動概要

熊本県地域医療支援機構では、熊本県と、熊本県から機構業務の一部を委託された熊本大学医学部附属病院が協力して機構の運営を行っています。当機構では県内における医師不足の状況等を把握・分析し、医師のキャリア形成支援と一体的に医師不足医療機関の医師確保の支援等を行っています。

年度が始って早々の4月14日、16日に震度7を記録する熊本地震により、未曾有の大災害が発生しました。このような状況のため、本来の業務として5月に予定していた熊本県地域医療支援機構講演会も、やむなく中止せざるを得なくなりましたし、様々な面で業務への影響が生じました。

しかしながら、被災した病院等もある中で、知事指定病院等の協力を得て、熊本県医師修学資金貸与医師の勤務が予定される36病院等の実情調査を行い、報告書をまとめました。また、キャリア支援のための制度への登録の推進やキャリア支援調整会議による卒後3年目の医師への支援等も実施してきました。更には、「もう一度臨床へ支援事業（女性医師の復職支援事業）」も熊本県から新たに委託を受けて復職支援コーディネーターを配置するなど、震災にも関わらず本来業務に積極的に取り組みました。

【主な取り組み】

- ① 地域における医師不足の状況の把握と分析
- ② 医師修学資金貸与医師、地域医療に従事する医師のキャリア形成支援
- ③ 地域と都市部の医療機関を循環して勤務できるシステムづくり
- ④ 医師に関する求人、求職等の情報の発信や医師、医学生等からの相談対応
- ⑤ 県内医療関係機関等との協力関係の構築

2. 年間活動実績

月	日	行事
4	13	地域医療支援機構担当者連絡会
5	6	地域医療支援機構講演会 —地震により中止
	5	卒後臨床研修プログラム説明会 基幹型新専門研修プログラム説明会
6	8	地域医療支援機構担当者連絡会
	11-12	日本プライマリ・ケア学会ブース出展
	15	学生面談（6年）
	9-10	第1回総合診療専門研修特任指導医講習会
7	13	地域医療支援機構担当者連絡会
	23	PFA講習会
	3	地域医療支援機構担当者連絡会
8	17-19	夏季地域医療特別実習
	31	地域医療支援機構担当者連絡会 修学資金貸与医師面談
9	14	地域医療支援機構担当者連絡会
	30	医師修学資金貸与医師面談
	6-12	男女共同参画コーディネーターの会
10	13	地域医療支援機構担当者連絡会
	26	地域医療支援機構担当者連絡会
	31	育児・介護支援情報会
11	14	地域医療支援機構担当者連絡会
	30	地域医療支援機構担当者連絡会
12	7	クローバーセミナー
	27	地域医療支援機構担当者連絡会
1	18	医学生・研修医をサポートする会
2	23	第1回地域医療研修連絡調整部会
	4	地域医療支援機構講演会 キャリア支援調整会議
3	21	地域医療支援機構理事会 地域医療支援機構評議委員会議

3. 活動報告

調査と分析

◆ 知事指定病院等の状況調査

熊本県医師修学資金貸与医師は、知事が指定する病院及び診療所（指定病院等）に、一定期間勤務することになっています。その際、貸与医師は定められた指定病院等に、ローテーションに基づき勤務することになります。

本人の希望を踏まえ、キャリア形成を支援するとともに勤務先を協議し、大学病院各診療科や関係医療機関と調整を行うことになっています。

そのため、勤務先となる指定病院等がどのような状況か、機構としても承知しておく必要があります。また、本人が勤務を希望する医療機関の選択に資するためにも、情報を把握しておく必要があるため、知事指定病院等の現状調査を行いました。

知事指定病院等の深刻な医師不足の状況を再確認することとなりました。また、これから女性医師が増加すると予想される中で（医師修学資金貸与学生の約25パーセントは女性）、医師にとって働きやすい環境づくりの必要性といった課題も見えてきました。

<調査内容>

- 病院の医師不足状況
- 待遇
- 労働管理・福利厚生環境
- 教育指導体制 等

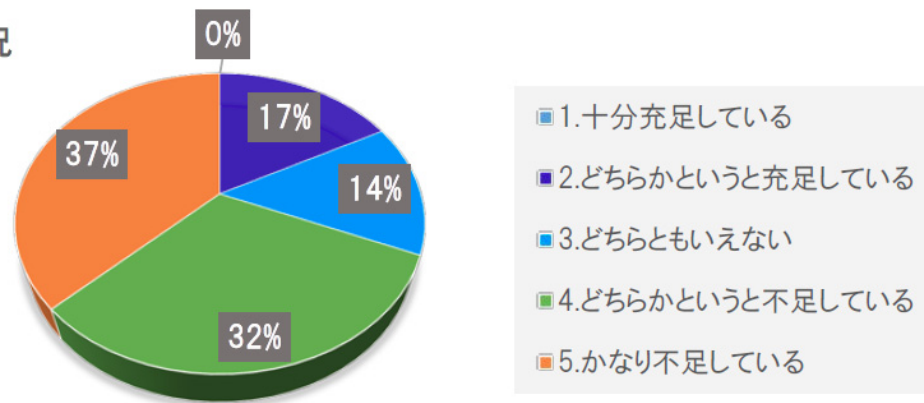
<調査期間>

平成28年10月中旬～11月上旬

<調査対象>

知事指定病院（32病院） —— 31病院回答
知事指定診療所（4診療所） —— 4診療所回答

医師の充足状況



◆ 県内各地の医療機関の医師不足状況および県内自治体における医師修学資金貸与制度導入調査

県内各地の病院等に対して個別に調査を行いました。また、荒尾市、玉名市、山鹿市、天草市で独自に設けられている医師修学資金貸与制度について訪問調査しました。

◆ キャリア形成支援

◆ 熊本県医師修学資金貸与学生及び医師のキャリア形成支援について

昨年度検討した熊本県医師修学資金貸与医師キャリア支援調整会議や登録制度等について、対象者に対し規則などを整備し、実施しました。

1. 熊本県医師修学資金貸与医師のキャリア形成支援制度の実施

「知事が指定する病院等の具体的な指定先」、「指定病院等の区分」、「具体的な配置ローテーションルール」等に関する規程について、地域医療ゼミや面談時に医師修学資金貸与学生・医師に説明し、「地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度」の対象者全員（60名）が登録済みとなりました。

また、自治医科大学生やその卒業生で義務年限内の医師に対しても説明し、支援制度への登録を推進しました。

2. キャリア支援調整会議の開催

平成29年3月21日にキャリア支援調整会議を開催し、卒後3年目となる医師修学資金貸与医師3名について、所属のプログラムや勤務先病院等について協議されました。

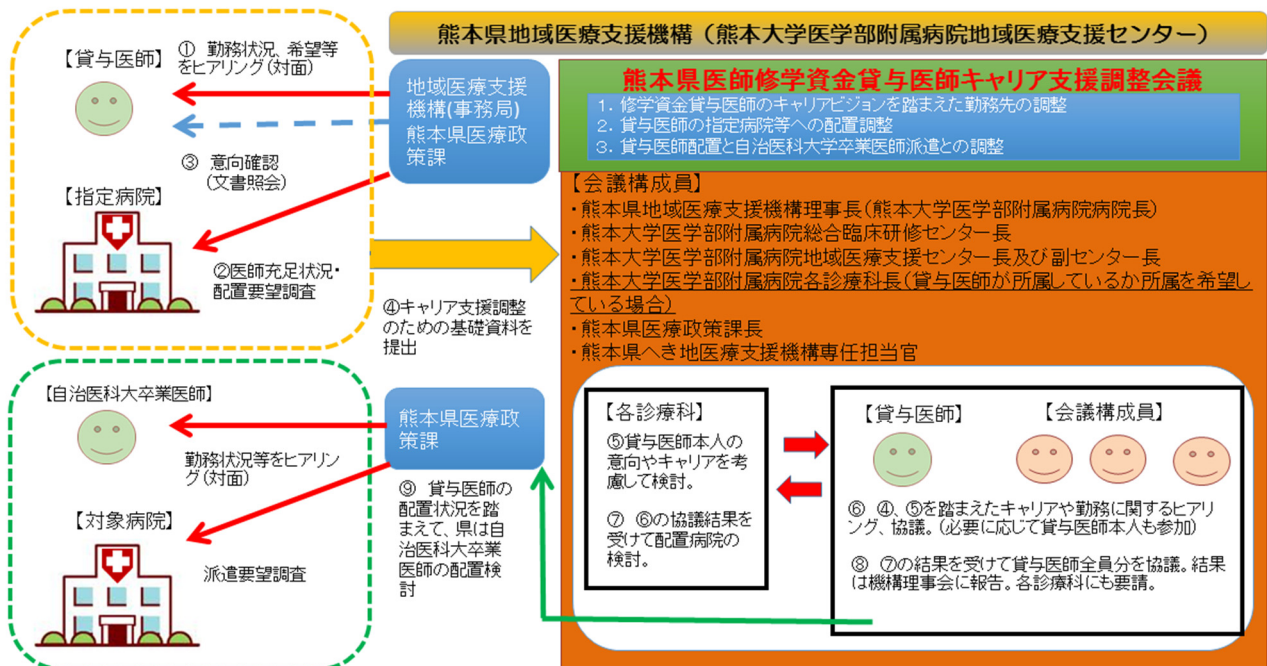
3. 熊本県医師修学資金貸与学生の面接

平成28年6月～平成28年8月の間で、1年生から6年生50名を面接し、平成28年9、10月には、卒後1、2年次医師8名を面接しました。

4. 卒業生の熊本県副知事との面談

平成29年3月29日、8名の卒業生が熊本県副知事と面談しました。

熊本県医師修学資金貸与医師キャリア支援調整会議の具体的な運営について【イメージ図】

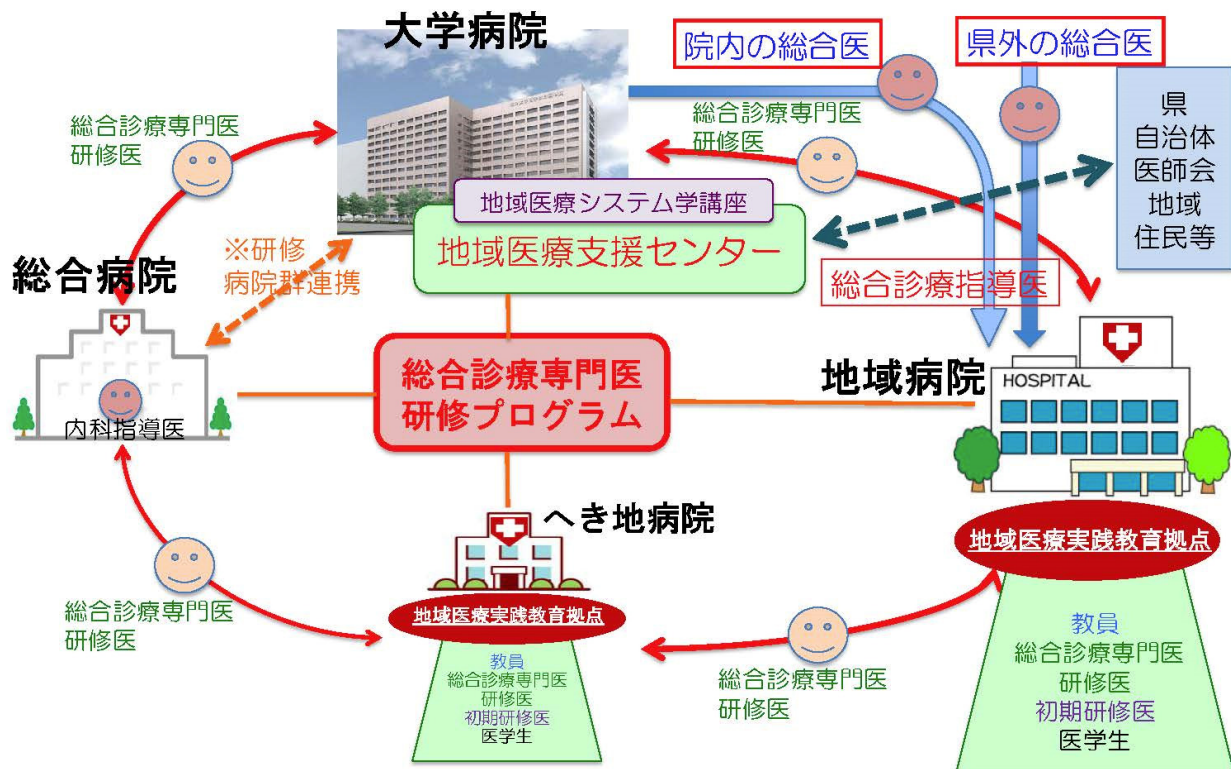


◆ システム構築

- ◆ 熊本市内と地域の医療機関が連携して、医師が都市部と地域を循環して勤務出来るシステムの構築に向けた取組状況

1. 平成27年4月にスタートし、28年4月から地域医療・総合診療の実践教育拠点として機能強化された玉名教育拠点に研修医を派遣し、循環システムの検証を行うとともに機構の教員が随時指導にあたり、テレビ会議システム等を活用したりするなどして、地域医療・総合診療の実践的な教育を支援しました。

熊本県での総合診療専門医養成システムの観点からの役割/位置付け



2. 地域医療研修システムについて

「地域医療研修連絡調整部会」を開催し、専門医制度が始まる中で、「地域医療の研修システム」の今後のあり方について検討しました。

平成28年度第1回地域医療研修連絡調整部会

<開催日時>

平成29年2月23日19:00~20:00

<開催場所>

熊本県庁新館8階 803会議室

<内容>

27年度第2回地域医療研修連絡調整部会の概要と、「地域医療連絡調整部会としての意見(案)」について事務局から説明をしました。

また、今後の地域医療研修システムのあり方については、近々新しい専門医制度が決まるので、総合診療専門医プログラム責任者を集めて意見を聞いてから再度検討することとなりました。

◆ 女性医師キャリア支援

これまで熊本市医師会に委託されていた女性医師キャリア支援のための情報発信や相談対応、病児・病後児保育や介護に関する情報提供の業務を引き継ぎました。そのため、ホームページの管理を熊本県地域医療支援機構で行うことになり、積極的なPR活動を展開した他、以下の事業に取り組みました。

- ・ クローバーセミナー（テーマ「働き続けるモチベーション」）の開催（12月7日）
- ・ 各種学会・セミナーで講演、発表、全国の男女共同参画に携わる医師との情報交換。
- ・ 医療機関の調査、冊子クローバー（勤務環境関係及び復職支援関係の2種類）の発行。
- ・ 学生への啓発活動として、「医学生・研修医等をサポートするための会」開催や、1学年・4学年への講義。
- ・ 男女共同参画活動が活発な岡山大学MUSCAT事業を視察。

◆ もう一度臨床へ支援事業

平成28年11月22日より、男女共同参画活動として、「もう一度臨床へ支援事業」を県から受託し、復職支援コーディネーターを配置して事業を開始しました。

取り組んだ事業内容は以下の通りです。

① 医師短時間勤務制度

「もう一度臨床へ支援事業」では、短時間勤務を希望される先生方のお手伝いをしています。短時間勤務を応援してくださる病院・臨床科の情報を提供したり、各病院の人事担当の方への連絡などを行います。

② お留守番医師制度

かかりつけ医が訪問診療に行かれる間の外来業務（お留守番医師）を担っていただく制度です。週1回から勤務でき、復職の第一歩として活用でき、各病院への連絡・調整などを行います。

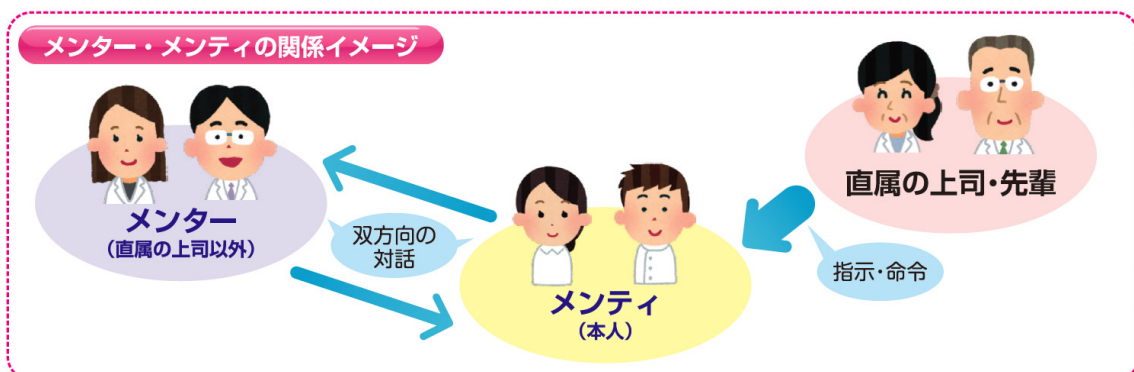
③ メンター制度の準備

「メンター制度」は直属の上司以外の先輩医師にキャリアについて、ライフイベントについて相談できる制度です。今年度はメンターの募集など開始準備を行いました。平成29年4月から制度の開始を予定しています。

④ 復職相談業務

女性医師のキャリア支援について、平成29年3月までですでに27件のご相談を受けました。

■ メンター制度



「もう一度臨床へ支援事業」

平成28年11月22日より「もう一度臨床へ支援事業」を始めました。
週1回の外来のお手伝いからの復職や、短時間勤務を始めるお手伝いをいたします。
また、平成29年4月からメンター制度も始めます。
そのほか育児や介護などについてもご相談ください。ご連絡お待ちしております。



メディッククラブをお借りして、お子様連れでのご相談も可能です。
お子様が遊んでいる間にゆっくりお話しませんか。
お気軽にお問い合わせください。

熊本県女性医師キャリア支援センター
お問い合わせ：熊本県地域医療支援機構（熊本大学医学部附属病院地域医療支援センター内）
TEL:096-373-5795 メールアドレス：k-joseishi@kumamoto-u.ac.jp
専任医師 後藤 理英子 ・ 復職支援コーディネーター 高塚 貴子

◆ 平成28年度熊本県医療人キャリアサポートクローバーセミナー『働き続けるモチベーション』 ◆

平成28年度 熊本県医療人キャリアサポート クローバーセミナー
働き続けるモチベーション

【日時】 平成28年 12月7日(水) 19:00 ~ 21:00
【場所】 熊本市医師会研修室
【対象】 医師・看護師 各病院の男女共同参画推進者
附属病院各医局男女共同参画コーディネーター
熊本県内の病院管理者 その他関係者

♡『クローバーの会活動報告』
国立病院機構 熊本医療センター院長
熊本県医師会男女共同参画担当理事 クローバーの会会員 河野 文夫 先生
(医局9時30分・9時開会前アプローチ 0.5単位)

♡『素敵な先輩（メンター）になってチーム医療を活性化する』
長崎大学病院医療教育開発センター 医師育成キャリア支援室 副室長・助教
松島 加代子 先生
(医局9時30分・19時開会前アプローチ 0.5単位)

♡『女性医師および全医療人のキャリア教育の方向性』
光風園病院副理事長 日本医学教育学会女性医師キャリア教育委員長
木下 牧子 先生
(医局9時30分・1医師のプロフェッショナルズ 0.5単位)

♡『働き続けるモチベーション』
▶ 事例1. 熊本大学医学部附属病院 消化器内科 泉 和寛 先生
▶ 事例2. 熊本大学医学部附属病院 産科婦人科 伊藤 史子 先生
(医局9時30分・9時開会前アプローチ 0.5単位)
日本医師会生涯学習委員 2単位 9時30分
1.医師のプロフェッショナルズ
5.心理社会的アプローチ
19時開会前アプローチ
0.5単位

【無料託児所について】
熊本県医師会館内の保育施設「メディッククラブ」が、熊本県女性医師キャリア支援センター事業の一環として無料で利用できます。ご希望の方は、事前にTEL：(096) 223-5162（熊本県女性医師キャリア支援センター）へご予約をお願いします。
ご予約は12月5日の午後5時までです。
(お電話は平日9:00から18:00の間に受け付けております)

🚗お車でお願いします
大学病院の駐車場をご利用ください。駐車券と引き換えに無料チケットをお渡しいたします。

【主催】 熊本県地域医療支援機構
熊本大学医学部附属病院男女共同参画推進委員会
【共催】 熊本県医師会 熊本市医師会
【お問い合わせ】 熊本県地域医療支援機構（熊本大学医学部附属院内）
TEL：(096) 373-5627

- 【クローバーの活動報告】
国立病院機構熊本医療センター院長（熊本県医師会男女共同参画担当理事）河野 文夫 先生（代理：後藤 理英子 先生）
【素敵な先輩（メンター）になってチーム医療を活性化する】
長崎大学病院医療教育開発センター 医師育成キャリア支援室副室長・助教 松島 加代子 先生
【女性医師および全医療人のキャリア教育の方向性】
光風園病院副理事長 日本医学教育学会女性医師キャリア教育委員長 木下 牧子 先生
【働き続けるモチベーション】
▶ 事例1. 熊本大学医学部附属病院 消化器内科 泉 和寛 先生
▶ 事例2. 熊本大学医学部附属病院 産科婦人科 伊藤 史子 先生



◆ 平成28年度医学生・研修医などをサポートするための会『地域貢献とワークライフバランス』

【子どもたちの地域での生活を支える】

熊本再春荘病院小児科医 認定NPO法人NEXTEP 理事長 島津 智之 先生

【専門とライフを活かす働き方】

熊本市東区役所 保健子ども課健康増進班 洲上 史 先生

【開業は医師の墓場か？】

たまな在宅ネットワーク 代表 安成医院 院長 安成 英文 先生

【地域志向性ケアとプライマリケアー私たちのワークスタイルー】

川崎市立多摩病院 家庭医を対象とした小児フェロー 町野 亜古 先生



平成28年度 医学生・研修医などをサポートするための会
地域貢献とワークライフバランス

◆日時◆
 平成29年1月18日(水)
 19:00～21:00

◆対象者◆
 医学生・研修医等

◆受講料◆
 無料

◆場所◆
 熊本大学大学院
 生命科学研究所附属
 臨床医学教育研究センター
 奥窪記念ホール

◆When?◆
 子どもたちの
 地域での生活を支える
 熊本再春荘病院小児科医
 認定NPO法人NEXTEP 理事長
 島津 智之 先生

◆Who?◆
 専門とライフを
 活かす働き方
 熊本市東区役所
 保健子ども課健康増進班
 洲上 史 先生

◆How?◆
 開業は
 医師の墓場か?
 たまな在宅ネットワーク 代表
 安成医院 院長
 安成 英文 先生

◆Where?◆
 地域志向性ケアと
 プライマリケア
 私たちのワークスタイル
 川崎市立多摩病院 家庭医を対象
 とした小児フェロー
 町野 亜古 先生

地域の健康を
 後押しする
 医師になる

【無料託児所について】
 熊本県医師会連中の保育施設「メディッククラブ」が、熊本県女性医師キャリア支援センター事業の一環として無料で利用できます。
 ご希望の方は、事前にTEL(096)223-5162(熊本医師会保健課)へご予約をお願いいたします。
 ご予約は、1月16日の午後4時までです。(お電話は平日9:00から16:00の間のみ受け付けております。)

【お問い合わせ】熊本県医師会事務局 TEL(096)354-3838

主催：熊本県医師会 共催：日本医師会、熊本大学医学部附属病院地域医療支援センター

◆ 情報発信と相談対応

◆ 熊本県地域医療支援機構のホームページによる情報発信・相談対応

ホームページに相談コーナーを設け窓口を設置しています。またイベントの告知やその報告なども行っています。

◆ 熊本県地域医療支援機構の専任医師等による相談対応

全国会議等で熊本県出身医師等からの相談を受けるとともに、地域医療ゼミ等の機会に医学生等からの相談に対応しました。また、県内の医療機関や自治体などに対しても相談対応をしました。

◆ 全国会議等での情報発信

全国会議等で、熊本県支援機構のチラシを配布するなど、熊本県の状況を説明し、求人活動を行いました。特に、6月11日(土)、12日(日)に開催された第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会(東京都台東区)においては、県内の総合診療プログラムの紹介と併せPR活動や求人活動を実施しました。



◆ メールマガジンによる情報発信

以下の3つのことを目的とし、メールマガジンの発行をしました。

- ① 熊本県内の医療関係者に対し、機構の取り組みを広く周知することで理解と協力を求める
- ② 県外在住の医療関係者に対し、熊本県内における地域医療の実情を知ってもらうことで、県内の地域医療への参加を促す
- ③ 熊本県内で地域医療に携わる医師及び医療関係者に対し、取り組みの状況と今後の方向性を示すことで、孤立感の緩和とモチベーションの向上を図る

<対象>

- 熊本県と縁がある県外在住の医師及び医療関係者、県内の病院・医師
- 県内自治体（市町村）の医療担当部署、熊本県及び郡市医師会
- 熊本県医師修学資金貸与学生及び医師
- 熊本出身自治医科大生及び熊本在住の自治医科大卒医師等

平成28年3月から、約500名の登録者に対して、19回、熊本県地域医療支援機構の取り組みなどを発信しました。▶▶

1	2016/3/18	医師の男女共同参画に関するアンケート結果
2	2016/4/4	新寄附講座及び熊本県医師修学資金希望者募集について
3	2016/4/16	熊本県地域医療支援機構講演会のお知らせ
4	2016/4/20	熊本市医師会保育所「メディッククラブ」無料開放のご案内
5	2016/4/21	熊本県地域医療支援機構講演会の中止のお知らせ
6	2016/4/22	熊本市医師会保育所「メディッククラブ」無料開放のご案内
7	2016/4/28	熊本市医師会保育所「メディッククラブ」無料開放のご案内
8	2016/6/9	第1回在宅医療実現のための互助システム構築説明会のご案内
9	2016/6/15	地域医療の現況アンケート調査結果報告書がまとまりました。
10	2016/6/27	第7回地域医療・総合診療グランドラウンド開催のご案内
11	2016/6/29	総合診療に関する研修プログラム説明会のご案内
12	2016/9/2	平成28年度夏季学生地域医療特別実習を開催しました
13	2016/10/5	総合診療後期研修プログラム専攻医募集のお知らせ
14	2016/10/6	熊本大学総合診療指導医養成プログラムの研修希望者募集のお知らせ
15	2016/10/18	熊本県医師修学資金貸与希望者（熊大一般枠・県外枠）追加募集開始のお知らせ
16	2016/11/11	クローバーセミナー（医療人キャリアサポートセミナー）のお知らせ
17	2016/12/27	「もう一度臨床へ支援事業」開始のお知らせ
18	2017/1/30	第9回地域医療・総合診療グランドラウンド開催のお知らせ
19	2017/2/1	平成28年度熊本県地域医療支援機構講演会開催のお知らせ

◆ 協力関係の構築

1. 評議委員会議の開催

地域の医療関係者の合意のもと熊本県地域医療支援機構の業務を進めていくために、地域の医療機関の代表者などで構成される評議委員会議を開催しました。

平成29年3月21日に理事会と評議委員会議を開催しました。

- ① 平成28年度事業実績について
- ② 平成29年度事業計画について
- ③ メンター制度の運営について
- ④ 熊本県地域臨床実習支援制度について

2. 地域医療支援機構担当者連絡会

熊本県医療政策課の担当者と地域医療支援機構の職員との連絡会を月1回開催し、事業の進め方や政策推進について協議しました。

3. 熊本県地域医療支援機構リーフレット

熊本県地域医療支援機構の取り組みなどについて、最新の情報を挿入したリーフレットを関係機関に配布し、周知を図るとともに理解を深めました。

4. 地域医療に従事する医師の研修受入について

天草市と熊本大学医学部附属病院との間で、天草市に所属する医師が地域医療支援機構業務に関わるための研修制度について覚書を取り交わしました。この覚書に基づき、御所浦診療所古賀義規所長を熊本大学客員研究員として受け入れました。

◆ 客員研究員活動報告

週1回大学の地域医療支援センターに足を運び、情報交換をすることで、県内の地域医療の現状や問題点を俯瞰的にとらえ、地域に還元するよう意識してきました。

まず、家庭医マインドを伝えるべく、御所浦診療所において可能な限り医学生実習を受け入れました。

次に、県内のいくつかの公的へき地診療所を視察しました。上天草市湯島診療所、産山村診療所、八代市椎原診療所、五木村診療所などの診療所と、小国公立病院、公立多良木病院にも訪問させて頂きました。県内の公的診療所とそこに勤務する医師の現状を知ることが目的でしたが、同時に家庭医マインドを持った医師による緩やかなグループ診療の可能性を探る意味もありました。

また、県と大学が主導するテレビ会議システムを御所浦診療所にも平成29年3月末に導入予定です。



◆ 診療・診療支援

大学病院においては、「総合診療科」の外来診療を月曜日から金曜日まで実施し、専門診療科以外の受診を目的とした初診患者を中心に診療を行いました。また、大学病院の救急外来診療、等も一部担当しました。その他の学外においては、各教員が、複数の地域の医療施設にて、非常勤での診療支援活動を行いました。

大学病院 総合診療外来

月	火	水	木	金	救急外来
谷口	(松井)		谷口	(松井)	谷口 (月3~4回) 日勤及び夜勤

学外診療支援

谷口	H28.4~H29.3国保水俣市立総合医療センター (週1回)
----	---------------------------------

◆ 平成28年度熊本県地域医療支援機構講演会『熊本県のこれからの地域医療の方向性を見据える』

平成28年度 熊本県地域医療支援機構講演会
熊本県のこれからの地域医療の方向性を見据える

Day 2017/3/4(土)
15:00 ▶▶ 18:00 (受付14:30~)

Place 奥窪記念ホール
熊本大学大学院
生命科学研究部附属
臨床医学教育研究センター
1階

*申し込み締切2017/2/24

1. 『熊本県地域医療支援機構 3年間の活動報告』
熊本大学医学部附属病院 地域医療支援センター センター長 松井 邦彦 先生
2. 『熊本県におけるプライマリ・ケアの展開』
日本プライマリ・ケア連合学会 熊本県支部 支部長 緒方 俊一郎 先生
3. 『福島県における家庭医・総合診療専門医の育成』
福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療学講座 主任教授 葛西 龍樹 先生
4. 『プライマリ・ケアの必要性：患者の視点から』
一橋大学国際・公共政策大学院 教授 井伊 雅子 先生

日本プライマリ・ケア連合学会 専門医・認定医研修のための単位・3単位
日本医師会 認定シニアセンター 1.5 単
【講師】 1. 医師のアクションプログラム 0.5単位 【講師】 2. テーム医療 1単位
【講師】 3. 医師-患者関係づくりコミュニケーション 1単位 【講師】 4. 患者の視点から 1単位

主催：熊本県地域医療支援機構
共催：熊本県医師会、熊本県医師会、熊本大学医学部附属病院、地域医療・総合診療実習室別荘講義
協賛：日本プライマリ・ケア連合学会熊本県支部、熊本総合診療研究会

お問い合わせ先
熊本県地域医療支援機構
〒960-8555 熊本県熊本市中央区北本1-1-1
E-mail: chikik@kyorokanetokyo.ac.jp TEL:096-373-2627 FAX:096-373-5796
URL: http://www.chikik-kyo.kumamoto.ac.jp

【熊本県地域医療支援機構3年間の活動報告】
熊本大学医学部附属病院地域医療支援センターセンター長 松井邦彦先生
【熊本県におけるプライマリ・ケアの展開】
日本プライマリ・ケア連合学会熊本県支部支部長 緒方俊一郎先生
【福島県における家庭医・総合診療専門医の育成】
福島県立医科大学医学部地域・家庭医療学講座主任教授 葛西龍樹先生
【プライマリ・ケアの必要性：患者の視点から】
一橋大学国際・公共政策大学院教授 井伊雅子先生

熊本地震により医療提供体制において大きな課題がある中で、平成29年3月4日に熊本大学臨床医学教育研究センター奥窪記念ホールにおいて、『熊本県のこれからの地域医療の方向性を見据える』をテーマに熊本県地域医療支援機構講演会を開催しました。

松井邦彦先生からは、熊本県地域医療支援機構の発足から3年を経過するに当たり、これまでの活動を振り返り、今後の取組みの方向性を示していただきました。

日本プライマリ・ケア連合学会熊本県支部支部長 緒方俊一郎先生から、熊本におけるプライマリ・ケア研究会の歴史を振り返り、今後も熊本でのプライマリ・ケアの推進に向けて、力強いメッセージをいただきました。

一橋大学国際・公共政策大学院教授 井伊雅子先生からは、医療経済学者の立場から、医療費や自身のレセプト研究で得た知見や医療者ではないといった視点をもとにプライマリ・ケアの必要性についてお話をいただき、医療分野からだけでなく、社会全体から質の高いプライマリ・ケアが求められていることが理解できました。

福島県立医科大学医学部地域・家庭医療学講座主任教授 葛西龍樹先生から、長年の海外における活動や交流や福島県での取り組みなど実例を交えながら、これからの社会で必要とされている家庭医療・総合診療専門医の育成の重要性についてお話をいただき、熊本での取り組みに大いに参考となりました。

最後に機構理事の小野先生から、今後も大学、行政、医療機関など関係者が連携して地域医療の推進に取り組むことが大事であるとの閉会挨拶があり、盛況のうちに終了しました。

総合診療専門医育成を

日常の病気や健康問題に幅広く対応する「プライマリ・ケア」に關する講演会が4日、熊本大学中央区の熊本大病院であった。地域でケアを担う総合診療専門医の育成や、検査や治療が重なる問題について、医師ら約200人が聴いた。

熊本大病院で講演会
地域全体のケア求める

目的
福島県立医科大学地域・家庭医療学講座の葛西龍樹主任教授は、地域

「総合診療専門医になるには、プライマリ・ケアを、日常の病気解決や予防、健康維持にまで考える医療として捉え、また同じ病状に行くと、また同じ薬を出し、救急も診療科ごとに分けてしまっている」として、初期から適切な医療とつながることが重要だと述べ、高層医療へ教授は、経済学の視点から適切な紹介や調整機

「最も重要な医療」という意味、治療費を担保するにも、総合診療専門医の役割は重要」と指摘した。(林田賢一郎)

熊本も果たしている。読者医療費の分析では、高

明、オランダやギリス、度医療機関が多い地域で

なども、1次医療従事者 1人あたりの公費医療費

医師「総合診療専門医」が向くことになる」と紹介。而

が担う仕組みが確立され、血圧や糖尿病の1人あた

りの外来医療費も、診療

国内の現状については、所、病院の方が高いと

健康維持に繋がるとい

病院に行くと、また同じ

検査や治療、患者が自由

を押し出さず、救急も診療

科ごとに分けてしまっ

るとして、日本でも「初

期から適切な医療とつ

ながることが重要だ

と述べ、高層医療へ

教授は、経済学の視点

から適切な紹介や調整

機

「最も重要な医療」と

いう意味、治療費を

担保するにも、総合診

療専門医の役割は重要

」と指摘した。(林田賢一郎)

井伊雅子 一橋大
教授

葛西龍樹 福島県立
医科大学主任教授

平成29年3月10日
熊本日日新聞より

